



に一度も授業をみたことのない教師が半数以上に及ぶ。これでは、自分の授業の腕は磨けないだろう。磨けないどころか、進歩がない分、悪くなる一方であろう。授業を見るのとするのであれば、大きな違いがある。時代は変化しているのに、教師の実力が変化しないのでは、学力低下も当然であろう。 □

- 
- 
- 
- 提案2…自分の得意芸（技）や専門科目のこと、出張内容等々を伝
- 
- 達していくべきである。

□同僚には、様々な教師がいる。パソコンにとっても詳しい教師、音楽専科の教師、いつも絵画コンクールに上位入賞を多く出す担任、英会話の得意な教師、その他各教科を中心課題として研究を続けてきた教師等々がいる。これら素晴らしい人材が、何かを中心とし

た「研究」になると、生かされない場合が多くなってしまう。せっかくの財産を捨て去ることもなる。これらの一芸や専門性を研究授業や校内研修会において他教師へ伝達していくと、現場はもつと活気を帯びてくると考える。なぜか日本という国や学校現場には、「自分の得意なことを見せびらかさない」という美德のようなものが存在しているように感じる。

その一方で、研究発表会等々に出張したら、復命書を出すだけでなく、他の教職員にその概要を必ず報告すべきである。旅費をつかったの公務なのだから、自分一人のものにせず、文書で報告して共有財産化していく必要があると考える。私の勤務経験では報告者があまりにも少ないという印象がある。

- 
- 
- 提案3…教職員をネットで結ぶ。
- 

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

私は小さなサークルを主宰しているが、それはメーリングリスト（ML）で結ばれている。そこでは、日々の実践や悩み、研修報告等々がなされている。このような仕組みが校内の教職員間であつたら、もつと意思疎通・研修の間としてメリットがあるのでないかと考える。例えば、指導案が完成したら、即MLに流す。そこへ、いろいろな意見や代案を出してもらうようにする。皆で検討する時間が不要になり、有意義な指導案研修の場となるだろう。そして、上記の出張報告に関しても、簡単にやっていくことができるだろう。

二. 評価の在り方

熊本県の海浦小学校では、「単元通知表」というものを採用されている。私もこれをまねて独自なものを作成し、

昨年1年間実践してみた。それは、国語科と算数科のみであるが、効果から言うと、こうである。なお、従来の通知表はもちろん存在しており、クラス独自に実践したものである。

1. 漢字や計算等の基礎学力において、一人一人の学力を意識するようにになり、確かに引き上げることができた。

2. 単元毎の評価を保護者に知らせるといことは、緊張感を生み出し、指導方法を再考するようになった。

私自身はこのような観を強くもったが、保護者はどうだったろうか。次のような意見が寄せられた。

①子どもの学力がどうなのかがはっきりとわかりました。苦手なところ等、

先生に最後まで指導して頂き、本当に安心し、心強く思え、ありがとうございます。視写や音読、計算等々に、あと何秒、あと何分と楽しんでいました。子どもが楽しんで勉強でき、本当に有り難いと思っております。

②子どもの毎日の授業を見るわけではないので、どれくらい理解しているのか、何が足りないかがわかりやすいので良いことだと思えました。家庭での勉強も何に力を入れたらいいのかわかります。

③項目別になっているので、できるところとできないところが明確にわかるので、良かったと思うし、今後の学習の参考になります。その一方で、できないところを、どのような家庭学習をさせていけばいいかのコメントがあると助かります。

④1枚の内に記載してあるので、成長

がわかりやすい。項目・回数が増えるのと、着実な伸び、あるいは一時的な停滞等がわかるのではないのでしょうか。

そのためには先生一人で作ることには限界がありますので、児童本人が記載できるようにして、本人の励みにするということも一考されてはいかがでしょうか。

教育は、教師対児童・生徒のみでなく、第三者の目として保護者や地域を含めていくことで、客観的な教育実践や教育評価が可能になっていくと思われる。もちろん、学力テスト等の客観的なテストも大切なことは言うまでもない。いずれにせよ、評価の仕方に改善を加えていくことで、学力低下は防げるのではないだろうか。

以上、校内研修と評価の在り方の2点について、自分の考えをまとめてみた。